

なるほどのっ



学校教育担当
キャラクター
甲斐善之助

西部教育局からのお役立ち情報

今月のトピック紹介版

9月号



授業の振り返りの質を高める

単元到達度評価問題の活用

昨年度の課題から

指導のポイントを探る! (9月)

「特別の教科 道徳」

ゴールの姿を明確にした授業づくり

組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」

すべての子供が安心できる2学期にするために

様々な状況に対応する学び

オンライン授業の実施に向けて

「教育環境を整えましょう!」シリーズ

～ユニバーサルデザイン(UD)の視点から～

第2弾 「時間の構造化」

道徳の授業づくりで大切にしたいことは、**道徳科の目標を踏まえ、道徳的価値に基づいた上で児童生徒に何について考えさせ、何に気づかせたいのか**を教師が明確にもつことです。

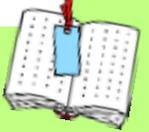
実践例

資料名：「席を譲ったけれど」（中学校1学年）B-（6）思いやり、感謝
本時のねらい：資料を通して、他者への思いやりとは何かを考えさせ、感謝と思いやりの心をもって行動しようとする実践意欲と態度を育てる。

授業づくりのポイント1

重点を置く内容項目の確認をする

四つの視点



◎学習指導要領解説で確認する



内容項目の概要の中に、中学校3年間に学ぶことが必要と考えられる**道徳的価値**が含まれています。

P. 36参照

B 主として人との関わりに関すること

6 思いやり、感謝

内容項目

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

中学校
↑
小学校

- (小学校)【親切、思いやり】
【第1学年及び第2学年】身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。
【第3学年及び第4学年】相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
【第5学年及び第6学年】誰に対しても思いやりの心をもち、相手の立場に立って親切にすること。
(小学校)【感謝】
【第1学年及び第2学年】家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。
【第3学年及び第4学年】家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者などに、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
【第5学年及び第6学年】日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。

小学校6年間と中学校3年間を視野に入れ、各学年の指導において、常に**全体の構成や発展性を考慮して**指導していくことが大切です。

内容項目の確認をすることで、本時で目指す生徒の姿をより具体化したり、発達段階に合わせた内容を焦点化したりすることができます。

授業づくりのポイント2

学習活動に沿った振り返りをイメージする

【ゴールイメージ（振り返りの例）】

もしぼくがこの中学生の立場だったとしても、親切で行った行為を否定されたら、怒りや悲しさを感じると思う。

でも、今日の学習で、相手にもそれぞれ主張や思いがあることが分かったし、様々な場面で自分も人から理解や共感してもらい、支えられているのだと感じた。

思いやりをもつことだけでなく、お互いの存在を肯定的に受け止め合うことで、共にかけがえのない存在であることを感じる大切だと分かった。

これからは、互いに支えあう経験を積むことで、今自分が相手に対して何をもって応答することができるのかを考えながら、気持ちを言葉にして伝えていきたい。

解説P. 36、37参照

【目標に示される学習活動】

- ①道徳的価値についての理解
- ②自己を見つめる
- ③物事を広い視野から多面的・多角的に考える
- ④人間としての生き方についての考えを深める

解説P. 14～18参照

授業づくりのポイント3

生徒の今後の考えや行動へつなげる展開の工夫をする

展開の工夫例

- 資料の提示の仕方
- 役割演技
- 学習形態等（個・グループ）

人間としての生き方についての考えを深めている生徒の姿

学んだ道徳的価値に基づいて、自分の行動への価値付けができるような展開の工夫が必要です。

相手の立場や思いがあるから、周りの様子をみたり、見守ったりする方法もあるかもしれないな。

「人は難しい」から、気持ちが伝わらないこともあるかもしれないけど、ぼくは必要だと感じたら声をかけたいな。

「授業づくりのポイント」を意識しながら教材研究をすることで、本時で学ぶ道徳的価値をより焦点化することができます。

指導案を作成する際にも、「授業づくりのポイント1～3」を意識してみてください。

すべての子供が安心できる2学期にするために

「見る」「聞く」「認める」を意識した学級経営を

「見る」

夏季休業明けで、学校が始まることに不安を感じている子供や夏期休業中に友達関係や家庭環境が大きく変わった子供がいます。2学期ははじめの子供の様子をしっかりと「見る」ようにしましょう。

【「見る」視点(例)】

～健康～

- 登校時や授業中に眠たそうにしているか。
- 給食を残したり、食べ過ぎたりしていないか。

～表情～

- 授業中の態度に変化はないか。
- 気分にもうがらないか。イライラしていないか。

～環境～

- 友達関係に変化はないか。
- 夏季休業中に家庭状況の変化はなかったか。



子供の様子に合わせた支援をすることが大切です。

～支援(例)～

- ★起床時間や就寝時間等を聞き取り、生活リズムを整えるように助言する。
- ★夏季休業中に努力したこと等を把握し褒める。
- ★家庭環境の変化等を把握し、関係機関と連携する。

「聞く」

コロナ禍による生活が変化することへの戸惑いや学習内容が難しくなることへの不安等、子供は様々な思いをもって2学期を過ごします。子供の思いを丁寧に「聞く」ことで、一人一人の気持ちを受け止めましょう。

【「聞く」ポイント】

- ①話しやすい場所で
- ②じっくり待って
- ③子供目線で警戒心を解きながら
- ④共感して



休憩時間に声をかけたり、行事の準備期間と一緒に活動しながら話をしたり、教育相談期間を利用したりと、「聞く」方法は様々あります。直接「聞く」だけでなく、日記や生活ノート等も有効です。情報は、職員間や関係機関で共有しましょう。

◎どんな気持ちなんだろう？



△子供を励まして何とかしよう



◎言いたいことはなんだろう？

△やる気がないから説得しよう！

「認める」

子供の自己有用感を育むためには、教師が子供を認め育てることが大切です。様々な活動や行事の中で、子供の熱意や頑張りを「認める」ことで、一人一人のよさを引き出しましょう。

【「認める」視点(例)】

- 目立たなくても責任をもってやり遂げている。
- いつもと同じように継続して取り組んでいる。
- 目標まで行き着かないが、その子供なりに全力で取り組んでいる。



大きな行事だけではなく、日々の生活の中で活躍できる場を設定することも大切です。また、教室掲示や学級通信等で子供の頑張りや思いを「認める」こともできます。

～行事の準備期間にこのような子供の姿はありませんか～

- ◆自分の考えを表現せずじっとしている。
(友達の意見を尊重しているように見えるけど…)
→ 実は、自分の思いを聞いてもらえないと感じている。
- ◆行事が近づくにつれて元気がなくなる。
(準備を頑張り、疲れが出たように見えるけど…)
→ 実は、苦手意識があり、行事に参加することに不安を感じている。



学校行事等に対して、苦手意識をもっていたり、参加することにプレッシャーを感じていたりする子供もいます。
行事前後のすべての子供の様子を「見て」、思いを「聞き」、しっかり「認める」ようにしましょう。

オンライン授業の目的は? どのような形態があるの?



目的

全員が教室に集合できなくても授業(学びの保障)を可能にする

双方向通信による友だち、先生、学校とのつながりの場を保障する



- ①感染症対策等で、1つの教室に全員が集合できない場合も授業を行うことができます。
- ②長期休業等の際に友だち、先生、学校とつながる機会となり、学びの保障の側面だけでなく、メンタルケアの側面もあります。
- ③県内、国内の学校との交流だけでなく、海外の学校との交流もできるなど、多様性に富んだ授業も可能になります。

形態

鳥取県内での実践例を紹介します。

事例Ⅰ 全ての子供たちが家庭で授業を受講する



県東部での実践例

事例Ⅱ 複数教室に分かれて、担任の授業を同時に受講する



県中部での実践例

事例Ⅲ 家庭での受講と複数教室での受講を合わせて行う



県西部での実践例

オンラインでの授業は初の試みなので、課題もありましたが実施した先生方や子供たちからは次のような感想が聞かれました。

先生方の感想 「接続方法や、オンライン授業ならではの板書や話し方などのコツがあることがわかった。」

子供たちの感想 「臨時休業になっても授業ができるとわかって安心した。」「またやってみたい。」

「オンライン授業を実施してみたいが、どうしたらいいの?」「実施してみたけれど、こんなことで困った。」等々、要望、相談等ありましたら、西部教育局まで御連絡ください。



実践事例を知りたい!

YouTubeの「鳥取県教育委員会」チャンネルに、これまでのオンライン授業の取組の動画が掲載されています。ぜひ、御活用ください。
<https://www.youtube.com/channel/UC1-MNsEz72z3mUb61-Elr5A>





教室環境が
乱れていると...

日々の生活が
乱れてくる

子どもたちの
心が
荒れてくる

学習に**集中**
しにくくなる

こうならないためには...

「時間の構造化」を徹底しましょう!

現時点でできているか(意識しているか)、
 にチェック(✓)してみましょう。
また、6月号で御紹介した「場の構造化」について、改めて確認してみましょう。

具体的には...「いつ何があるのか」、「どのような流れで進むのか」を明確にすること。

1週間の流れ



時間の流れに関する
掲示等の色を統一する。

1日の流れ

3月17日(木)の予定

1	学活	} そつ業式	持 算数ボリッ のふ3
2	学活		
3	学活	} 学級会	漢字② ①~⑤
4	学活		
5		1:30ごろ下校	計②
6			⑤P162.163

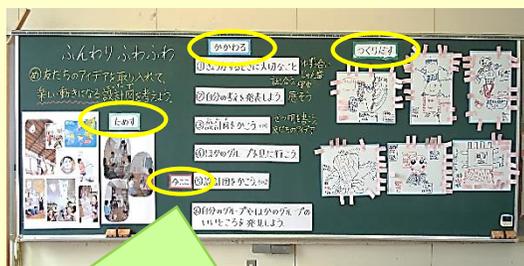
今日の予定 **45分**

分	科目	内容・持ち物
1	理科	分子の性質
2	国語	漢字30~40 自己紹介文
3	社会	時差 なし/なし/5分
4	数学	年生の復習
5	保健	集団行動/サイン 認証式
6		

時間等の変更があれば、
事前に色チョーク等で書く。

1単位時間や学習内容を
明確にする。

1時間の流れ

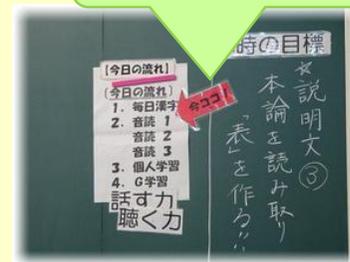


学習の中で常に使うキーワードは、
事前に作成し、同じものを提示する。



黒板はきれいで、すっきりさせ、
視覚支援をより見やすくする。

今していること(現在地)に、
印をつける。



先生方が確実に時間を守り、
「よりよい行動モデル」になりましょう!

全教室で意識しましょう!

【ポイント】

- 全体の流れとともに現在地を明確にする。
- 時間変更は、できる限り事前に提示する。
- 学習の流れに関するキーワードは、すぐに(繰り返し)使えるように準備しておく。

